

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』No. 19

代表責任者 古高 利男

☎270-1132

我孫子市 湖北台2-14-7

☎09072759890

2012年 3月23日

第19回活動 「サケの放流」 (23年度最後の活動)

・・・もどってこい、サケ・・・

* 日時: 2012年3月10日(土) 14:00~ 天気: 小雨後曇り

* 場所: 都市農業公園、新芝川

* 参加者: ○のらえもん家族 8 内訳 大人 9名

小学生 10名

幼児 4名

合計 23名

○ 本木小学校2年 保護者・児童・担任・・・41名

○ 淵江小学校2年 保護者・児童・担任・・・30名

○ 鹿西小学校2年 保護者・児童・担任・・・10名

○ 鹿浜幼稚園・保育園 担任・・・3名

○ スタッフ 4名

総合計・・・111名

* 活動の様子:

小雨まじりの肌寒い中、大きく成長したサケを持ってぞくぞくと集まってきました。

のらえもんの会員はもちろんのこと、鹿西小・本木小・淵江小の保護者と子ども・そして先生方、鹿浜幼保の先生、小駒上沼田小校長、福藤青少年委員、鹿浜昭区議会議員の方々です。

これまでサケを育ててきた情熱が、どんどん伝わってくるような集まりでした。そして、

「こんなに大きくなったよ」「エサをいっぱい、あげたからかな?」「1匹しか、残らなかったの・・・」と、育てた感想を熱く語っていました。とてもいい風景でした。

12月8日から育てはじめ、今日までに約1000℃の積算温度を数えています。大きいものは6cmにも成長していました。「これなら元気に海へゆけるかな?」と、1匹ずつにいろいろな思いが浮かんできました。放流するときの子どもたちの表情は真剣でした。心配そうな顔には、別れのつらさとサケへの励ましがたくさん表れていました。

自然環境感の前に集合し、はじめに「さけの一生」の紙芝居を読みました。「大きくなったサケが川を上り、卵を産んで死に、それに変わって新しい命が海に向かう」というお話です。この紙芝居は、会員である本田倫恵さん(新田小)のお母さんが、2年生の国語教材「さけが大きくなるまで」を、すてきな絵に仕上げてくださいました。さけの育って

く様子を理解しやすいようで、子どもたちは紙芝居の近くまできてのぞき込んでくれました。

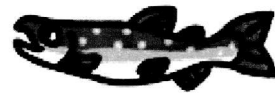
この紙芝居は、すでに3つの学校で授業に使わせてもらいました。

いよいよ放流に出発です。と、そのとき、のらえもんのケータイが鳴りました。青少年委員の福藤様からです。「今、荒川に来ているんだけど、水がないよ。干潮で、50分先まで、泥が出ているよ。ここは、ダメだ。芝川にしよう。」という連絡でした。芝川は、すぐ近くです。行ってみると、ここもコンクリートの階段の3つ分の所まで水が下がっています。高さにすると2分はありそうです。滑るのを気おつけければ、なんとか放流はできそうでした。大人がガードして、子どもたちを一人一人川岸に降ろしてあげました。

子どもがしゃがむと、手の所に水面があります。放流には、この方が良かったです。そして、川を泳ぐサケの姿を見ることができました。荒川で放流していたときは、「上から落とす」感じでしたからね。

放流の前には、階段のところで、学校ごとに記念写真をとりました。「もどってこい、サケ」のプラカードを持って、水槽も持ち上げて、みんなとてもいい顔で写りました。

梅園では、5分咲きの赤白の梅が咲いていました。自然環境館の中では、本木小学校のお友だちがたくさんいました。みんなゆったりと気持ちを一つにして、コマを回したりおはじきをしたりして遊んでいました。一つのグループは俳句に挑戦していました。サケの放流をしてきたその思いを、5-7-5にまとめていました。その作品をいただきましたので、みなさんに紹介したいと思います。どの俳句も、さけへの思いがいっぱい入っていますね。



本木小学校2年生の俳句

- さけそだてかわにながしてさようなら
- さけそだて大きくなってまたあおう
- さけそだつ大人になって食べられる
- しぬけれどいのちのこしていったよね
- さけそだて大きくなってまたあおう
- みんなねそだてたさけはげんきだね
- さけそだて赤ちゃん生んでしぬんだよ